

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

どこを受験するか迷っていたときに、担任の先生から同姓を勧められて、オープンキャンパスに行ったのがきっかけです。カリキュラムもしっかりしていて、自分の学びたいと思うことが学べそうだったのが良かったです。演奏と音楽文化、2つの専攻があるのも同姓の魅力だなと思い、同志社女子大学を志望校にしました。

(2) 一般入試対策としての受験勉強、実技試験対策の進め方について。

※音楽学科入試課題については、『2018年度音楽学科入試課題』で必ずご確認ください。

〔1学期〕 学校行事も多くあり、最上級生となって時間も少なくなりましたが、学校から出された課題をしっかりとやることと、日々の予習を頑張っていました。予習すると自分の頭でもとて理解できると、授業が分かりやすかったです。実技は、やらなければいけない曲数が多かったのですが自分のものにできるようになるべく多くの時間をかけました。発表する機会が多くあって腕だめしになっていました。

〔夏休み〕 とにかく部活が忙しくて、毎日しっかりとした時間をとることができませんでした。朝は早起きして学校のレッスン室にこもって練習していました。部活が終わった後は家で課題と同じくしていました。難しい問題よりも基礎を固めることの方が大事だと思ったので易しめの問題集1冊を何度も解き直して、余裕のあるときに難しいものをしていました。あと、コルエーブゲン1冊覚えようとして、覚えるように日々呪文のように歌っていました。覚えることは自分の自信になりました。

〔2学期～入試直前〕 部活も引退して自分の今しなければならぬことが明確になってきていて、センターに重きを置いて対策していました。スキマ時間では英単語や英語の文法の本を眺めて暗記するようにしていました。楽典は毎日20~30分問題を解いていました。することの量も多くてきつかったですが、毎日少しずつ小さな目標を立ててやるようにしていました。実技も部分練習や自分が苦手な曲だと思っ所の練習を多めにして自信をつけられるようにしていた覚えがあります。後は1時から2時くらいまで起きて勉強や楽典をしていました。小論文対策も先生に頼んでたくさん見てもらい、本番でよいものが書けるように頑張っていました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は管弦楽部に所属しており、部活に時間をとられて勉強と実技をする時間を多くはとれませんでした。空き時間を見つけて勉強・実技に取り組みました。朝早く学校に行って朝練をしたり、昼休みなどの休み時間も積極的に勉強するようにしました。忙しい日々の中でも、しっかり睡眠をとって食事でも栄養をとることはとても大切なので頑張らざるを得ないようにしていました。また、テレビやスマホを使う時間がとてももったいなく感じていたので、使うことを封印していました。受験の終わりが見えなくてつらくてスランプ気味のときもありましたが、そのときは自分の好きなことをして気を緩らわせていました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験はとてつらくて、悩むことも多く大変だと思いましたが、あきらめずに努力し続ければ成果は出ると思います。小さな努力が誰にも負けない大きな花になるのではないかと思います。悔いのないようにやるのが大切なので、頑張ってください。応援しています。